

Links between
Piano technological evolution
and
Piano works at the XIX century.

Schubert
Chopin
Schumann
Liszt
Rachmaninov
Debussy
Ravel

イヴ・アンリ教授 レクチャーコンサート

ピアノの技術的進化と 19世紀のピアノ作品との関係性

シューベルト、ショパン、シューマン、リスト、ラフマニノフ、ドビュッシー、ラヴェルの作品より

Yves Henry
イヴ・アンリ

パリ国立高等音楽院教授

2013年11月2日(土)

15:00~17:00

汐留ベヒシュタイン・サロン

¥2,500

1) 19世紀初頭:精緻なメカニックのウィーン式ピアノの黄金時代

フランツ・シューベルト:「サロン向きの楽器であるピアノ」

即興曲op.90 (1827)

楽興の時D.823 (1823-1828)

ロベルト・シューマン:「ピアノの詩的かつ多声的なビジョン」

幻想小曲集op.12 (1832)

2) 1830年から1850年フランスの代表する2大ピアノメーカー・プレイエル およびエラールの出現

フレデリック・ショパン:「楽器の残響現象と洗練された響き」

ノクターン遺作嬰ハ短調(1830)

子守唄op.57 (1843/44)

フランツ・リスト:「普遍的(または全世界的)な楽器としてのピアノ」

献呈(シューマン作曲(1840) リスト編曲(1848))

3) 19世紀後半:スタンウェイおよびベヒシュタイン、コンサートの現代のピアノ

フランツ・リスト:「超絶技巧を表現する楽器としてのピアノ」

リゴレットパラフレーズ(1855/59)

セルゲイ・ラフマニノフ:「音色が多彩なピアノ曲 (ショパンのような)」

前奏曲op.32 No.5ト長調« Moderato »

超絶技巧的なピアノ曲(リストのような)

前奏曲op.23 No.2変ロ長調« Maestoso »

クロード・ドビュッシー:「オーケストラと音色」

牧神の午後への変奏曲(コンサートバージョン)

モーリス・ラヴェル:「最高潮:オーケストラをピアノへ」

ラ・ヴァルス(イヴ・アンリ編曲コンサートバージョン)

※曲目など変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

※お申込み・お問合せは裏面をご覧ください。